

白川静漢字教育賞【第12回】



お昼の放送に委員会活動を活用して 白川文字学を全校で味わう

岐阜県 岐阜市立本荘中学校講師
岸 浩道 氏



実践の概要

- ・放送委員会の10のグループにはそれぞれ企画放送のテーマが割り振られている。その一つに「白川文字学の世界」を位置づけ、漢字の成り立ちを中心に、およそ2週間に一回のペースでこれを放送した。放送はロイロノートを活用した擬似アニメーションを活用したもので、全校のテレビで視聴することができる。これに合わせるアナウンスは放送委員会の生徒が担当した。
- ・放送する文字は、生徒にとっての意外性と納得感を重視して選出した。また、単なる知識の伝達に留めず、生徒の日常に関連付けるよう、番組終末部のまとめ方を工夫した。

今日の企画放送

7/1	今日の早口言葉
7/2	今日の百人一首
7/3	今日の読書案内
7/4	「白川文字学の世界」
7/7	今日の短歌教室
7/8	今日のおすすめ本
7/9	本荘 絵心王
7/10	今日の朗読
7/11	今日の一言歴史
7/14	今日の難読地名

教室の大型モニターで受信

あつたどさ
棒が一本

お、こんな感じの棒が
ほしかったんだ、オレ

いやいや、オレの方が先
に見つけていたんだ

放せ、この！
放すか、こちら！

一つしかないものを
一人占めしようとするから
争いは起こるのですね。

「分かち合う心」を育みたい、
そう思いませんか？

こんな漢字について
も考えました。

年
季
強
弱
開
手
産
産
木

「ロイロノート」
共有ノートに
投稿＆作業

百人一首の部屋 難読なんとか 早口言葉 お経

放送室のパソコンで再生 白川静博士の漢字の世界

子供たちの反応

○「祭」という漢字ががそのときの動作を表す象形から作られたことが印象的だった。自分が思ってた祭りは、みんなで楽しむもの(踊ったりすること)だと思っていたけれど、本当は神仏や祖先を祀るという意味で、今と違うことに驚いた。

○手は、 こういうので表されていたと覚えることができた。「『祭』のとき、同じようなのが手だったから、これは門と手だろう。なら、『開』じゃないか」と、前に知った漢字と見比べながら考えることができておもしろかった。これからももっと知りたい。

講評(棚橋尚子氏)

昼の放送で委員会の生徒さんたちが、「今日の一文字」として、漢字の成り立ちの話をモニターに写しながら解説する取組は、短い時間を有効に使って、白川文字学の世界を聞き手に体感させる効果的な内容だと審査員の間で評価が高かった。また、放送内容である白川文字学解説の台本も非常に整理されており、ほかの学校でも同様の実践ができるといった実践の「汎用性」についても話題になった。ただ、台本作りにどの程度生徒の皆さんがかかわっておいでなのかなどの点が応募作品からは少し見えづかったため、その点も明示されているとさらに良かった。

白川静漢字教育賞【第12回】



漢字の起源を踊りで表現

古代文字之舞

はじまりとおわり『人の一生（阿吽）』

一社）司延子モダンバレエ

振付 司紘臣

舞踊 司延子モダンバレエ舞踊団員

司延子モダンバレエは、2020年に立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所から制作協力のご依頼を頂き、「古代文字之舞 三部作」を創作しました。この「漢字の起源を踊りで表現」という試みは、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所が、故・白川静名誉教授の生誕110年記念の活動として行ったものです。漢字の世界は、字源（成り立ち）と系統（つながり）があり、いろいろな漢字が密接に結びついている。そのため、漢字を学ぶ際にも、読む・書くにとどまらず、その原理を理解することが大切である。その実践として、古代文字のダンスを創ることで、古代文字を身近に知り、漢字の成り立ちや、つながりを、ダンスを通して「体感」してもらう。子供達が、漢字をより楽しく深く学んでいく為の一助としたい、とのご依頼でした。

このような機会を頂いたことで、私たちは、漢字は、ただの記号や平面的なものではなく、古代の人々が、思いや祈りを込めて創り出したものであり、一文字一文字が生きた人々の生活を包含しているのだと感じることができました。2025年に創作した、古代文字之舞 はじまりとおわり「人の一生（阿吽）」では、以下の9つの漢字を表現しています。

- ①産 産まれた赤ちゃんが健康に育つようにと額に印をつけている様子
- ②保 赤ちゃんをおくるみで包みおんぶしている人の姿。祖先の霊を乗り移らせる儀式。
- ③教 神聖な建物の中で子供たちを守りながら、様々な教育を与える為に先生が鞭をもち、厳しく教え込んでいる様子
- ④彦 額に美しい文様を施して成人の儀を行う様
- ⑤族 成人達が集落の結束を固めるために、一族の旗のもとで矢に誓いをたてた様子
- ⑥老 人が年を重ね、杖をつく年齢になり、人生を思い浮かべている様
- ⑦還 亡くなってしまった人の襟元に玉を置き、死なないで、もう一度帰ってきてほしいと嘆き祈る様
- ⑧奪 亡くなった人の魂が小さな鳥となってとんでいってしまうところを押しとどめようとしている様
- ⑨鳥 亡くなった人の魂は渡り鳥の姿で戻ってくる

舞台発表の
映像はこちら↓



④ 彦



⑤ 族



⑧ 奪



⑨ 鳥



「古代文字之舞 三部作」

左右の巻



手の巻



足の巻



立命館大学との古代文字之舞制作時の様子はこちらで公開しています。

(2020年7月撮影)



■講評(棚橋尚子氏)

舞踊の様子からは、「漢字の意味がダイレクトに伝わってくる」「古代の祈りと舞がダンサーの表現でよくあらわされている」など、審査員からの高い評価があった。ただ、応募された動画作品の段階では、正式な発表前の風景だったために、漢字がテロップなどで示されず、舞踊と漢字との関係が見えにくいのではないかという意見もあった。

白川静漢字教育賞【第12回】



バトルカードゲーム
「カンジモンスターズ」により
漢字の“おもしろい”を伝える活動

tanQ 株式会社
森本 佑紀 氏



文字が世界をおぼえている

故・松岡正剛著『白川静』の1ページ目1行目に書かれていたこの表現に、僕はこころを奪われました。tanQという探究学習を事業とする私は、なんとかこの世界観を子どもたちに伝えられないかと思い、白川漢字の世界観をキャラクターに、そして5歳でもあそべる簡単なカードゲームにして、製品を販売しました。



楽しさで広がっていくカンジモンスターズ

2022年12月にAmazonや楽天などで発売し、2023年から本格的に学童向けにワークショップを始めました。神奈川県を中心に、のべ5000名に体験してもらい、2025年11月現在累計販売数2万個超を数えました。

また、自治体や学童運営会社にも、積極的に寄贈を行いました。大阪府豊中市からは表彰状を授与。夏休みは気温が高すぎて「そとあそび」ができないことから、猛暑日には室内で有意義にあそぶのに役立っています。また、福井県からもワークショップの依頼があり、約90名に講座を実施。満足率100%で実施を終えました。(アンケート結果:【児童】楽しかった41/44 まあまあ楽しかった3/44 【保護者】とてもよかった35/36 まあまあよかった1/36) 昨年には、日本漢字能力検定の推薦製品になることもできました。

外国人向け漢字教育や、特別支援学級にも

英語も併記しており、外国の方が日本語を学ぶ日本語学校でも、学びの入口として活用。

特別支援学級でも活用されています。特別支援学級担当教員向けに「カンジモンスターズ ファシリテーター講座」を実施。受講された先生がご自身の勤務校にて「カンジモンスターズ」を授業で活用し、その後、漢字が大嫌いで机の下に隠れてしまうような子どもが、読み書きをできるようになったとの報告がありました。その様子取材し、詳細は、TEAChannel (日本漢字能力検定協会により運営) にて記載。

<コラム: 漢字が大嫌いで机の下に隠れちゃうような子どもでも、漢字が好きになる指導法>

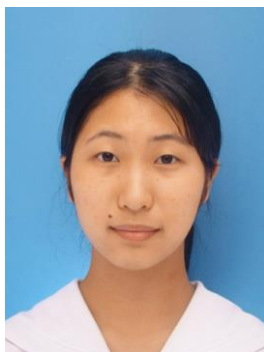
<https://teachannel.kanken.or.jp/contents.php?c=post&id=i0ljskbrbyn0hq9meysv0mjzw6y>



■講評(棚橋尚子氏)

漢字の形態的意味を生かして遊ぶカードゲームで、児童が楽しみながら漢字の構造を理解できる教材として大きな意義がある。また、審査員の間では教育と娯楽との融合を目指した意義深い実践であるとの高い評価があった。

白川静漢字教育賞【第12回】



古代文字書作品「武士のごとく」

福井県立鯖江高等学校3年
伊藤 優衣 さん



風林火山



「風林火山」は武田信玄が掲げた教えて、「風のように素早く、林のように静かに、火のように激しく、山のように動かず」という武士の理想を示しています。この言葉を知ったとき、私は素早く行動し努力を重ね、自分の意志を貫く受験生の姿と重なりました。作品では、風・林・火・山が自然にあるものとして、白川文字と自然を融合させた表現に工夫しました。風の涼しさを墨のかすれで、林火の静けさを淡で、山の重さを濃で表し、濃淡によって色彩を感じられるようにしました。また、「風林火山」の続きの言葉にちなみ、文字をつなげて書くことで、経験が永遠に自分の力となるようお願いを込めました。

■講評(棚橋尚子氏)

「風林火山」という古代文字の一つ一つを自分なりに解釈し書き表したもので、立体的な絵画のような雰囲気が印象的である。力強い筆致、墨の濃淡を工夫した文字の配置など自身の解釈が作品によく表れていると高い評価を受けた。

【一般の部 講評】(棚橋尚子氏)

第12回を迎えた、今年度、応募の枠組みに大きな変更がありました。それは、一般の部が「研究実践部門」「創作部門」の2部門に分かれたことです。新設された「創作部門」では、漢字に対する知的好奇心をもとに制作され、漢字文化の普及につながる作品を募集しました。

応募総数は、「研究実践部門」が6点とやや少なくなりましたが、「創作部門」については書写書道作品、動画、ゲーム、舞踊など多岐にわたる多くの作品が選考対象となりました。残念ながら今年度は最優秀賞にあたる作品は選考できず、それぞれの部門での優秀賞として、研究実践部門賞、創作部門賞を選考するに至りました。

選考結果を振り返りますと、いろいろな要素のある作品を選考することができたように感じます。この選考で、それぞれのご実践の意味と意義とを明確にでき、全国の方々に、白川文字学を活用した漢字教育や表現が各種学校、各方面で有効であると感じていただける結果となったのではないかと思います。

白川静漢字教育賞が創設されて13年、その間に、教育のデジタル化が進み、漢字学習についても大きく様相が変わりました。漢字ドリルも紙媒体のみでなく、デジタル媒体の活用も多くなってきています。そんな日常の漢字学習をご自身の見方ととらえて研究されるような、新規性のある研究実践を期待します。また、現行学習指導要領では小学校中学校ともに語彙についての項目が新設され、語彙教育の充実が叫ばれています。この語彙と漢字を結びつける学習指導をどのように進めていくかなどは非常に意義のある内容かと思えます。学校現場のみならず、各方面で語彙に着目した研究実践もお考えになっていただければと存じます。

白川静漢字教育賞【第12回】



漢字川柳部門

(講評：選考委員 岩佐 直美 氏)

「結」大切な いのりの気持ち 閉じこめる

たいせつな いのりのきもち とじこめる

福井県 福井市東郷小学校4年 山田 彩世さん

<「結」成り立ち>

音を表すのは吉(きつ)。吉は𠂔(口は𠂔(さい)で、神への祈り文である祝詞を入れる器の形)の上に小さな銭の頭部(士の形)を置いて祈りの効果を閉じ込め、守ることをいう。銭は邪悪なものを追い払う力を持つと考えられていた。結ぶということもそこにある力を閉じ込める意味があった。結は「むすぶ」の意味から「つなぐ、約束する、固める」などの意味に使う。

【成り立ち】参考文献：『白川静博士の漢字の世界へ』(福井県教育委員会編、平凡社刊)

■講評(岩佐氏)

「結」の成り立ちを丁寧に踏まえ、祈りの気持ちを閉じ込めるという深い意味を端的に表現しています。静かながらも、心の奥に響く一句となっています。

「雲」かくれんぼ 雲からしっぽが 見えてたよ

かくれんぼ くもからしっぽが みえてたよ

福井県 越前市北日野小学校1年 藪 菜々子さん

<「雲」成り立ち>

音を表すのは云(うん)。云は、雲の流れる下に竜の尾が少し現れている形で、「くも」をいう。云は雲のもとの字で、のちにあめかんむりを加えて雲の字となった。【成り立ち】参考文献：『白川静博士の漢字の世界へ』(福井県教育委員会編、平凡社刊)

■講評(岩佐氏)

「雲」の成り立ちを楽しくとらえ、「云」は雲の下に竜の尾が少し現れた形であることを子どもらしくユーモラスに表現しています。空を舞台にしたスケールの大きさが魅力の一句です。

漢字作文部門

(講評：選考委員 大野 喜美恵 氏)

「虹 天と地をつなぐ」

福井県 福井市清水中学校1年

谷本 佳子さん

今年の夏の始まりは、雨の日が多かった。部活動がトレーニングに変わり、憂鬱になった。帰り道、雨の上がった空を何気なく見上げると、田んぼのむこうにある、小学校の体育館の屋根にかかった虹が見えた。「そういえば、なぜ虹という漢字にはむしへんが使われているのだろう。」トレーニングの憂鬱がささやかな疑問に変わった。

古代中国では、虹は竜になる予定の大蛇が大空を突き抜けることで出来ると信じられていた。竜は虹に似た姿とされ、蛇や水辺の生き物を表す「虫」という部首が使われたとされている。また、右側にある「工」の字は、その形から見て取れるように「天と地をつなぐ」という意味がある。

虹は光の物理現象であるのに対し、漢字の「虹」は古代中国の自然観が反映されて生まれたものだを知った。実際に虹が天と地をつないでいる風景を見て、驚いたと同時に私の心も七色に晴れた。

■講評(大野氏)

日常の素朴な疑問から「虹」の成り立ちを探る流れが自然で、古代中国の竜の逸話に触れながら、天と地をつなぐ存在としての虹を豊かに描いています。部活帰りの風景と心情の変化が詩的に重なり、最後の「七色に晴れた」で深い余情が生まれました。

「道」

福井県 福井県立高志中学校1年

梶 玲央さん

僕は、「道」という字が上手く書けない。首の部分の大きさや形、しんによる「𠂔」のクランク、最後のストレートの長さや払い終わる時のバランスが何とも難しいからだ。

「道」と言えば、テレビで江戸期の浮世絵「東海道五十三次」が紹介されていた。旅人達が愉しげに行き交う様子、宿場町やそこから観える景観が生き生きと描かれていて、僕も江戸っ子だったら、とも思える一枚だ。

「𠂔」の、は道の起点で、クランク「𠂔」は山を登る時のジグザグ、角の部分は、まるで当時の関所のように見えてきた。最後のストレート「一」は、いい流れができて、人々がずっと終着点へ向かう感じがする。だから払い終わりは、やや上向きなのだろうかと考えた。

東海道は現在の東海道新幹線の礎となっている。最初は大変でも、暗いことはばかり考えてうつむいていると、頭が重くて道が折れそうになり、歩きだせない。そんな時でも上を向いて、自分の道を歩いていこうと思った。

■講評(大野氏)

「僕は『道』という字がうまく書けない」で始まる語りが親しみやすく、「道」のしんによる部分に風景を思い描きながら綴った表現が生き生きとして印象的です。東海道のエピソードを通して自分を励ます展開もよく練られています。

白川静漢字教育賞【第12回】



自由部門

(講評：選考委員 大野 喜美恵 氏、岩佐 直美 氏)

「龍」 宙を舞うシルエット



福井県

越前市武生第二中学校2年

安立 橙令さん

■講 評(岩佐氏)

力強く美しい字形が「龍」の持つ神秘的なイメージをよく表しています。ポイントで使われた黄色の絵の具が映え、文字の存在感を際立たせています。流れるような筆遣いと作品全体の雰囲気から作者の感性を感じる作品です。

「馬」 風を切る馬



茨城県

茨城県立勝田中等教育学校3年

小木 陽太さん

■講 評(大野氏)

風になびくたてがみや力強く走る脚など、墨の使い方や線の勢いで、走る馬の迫力が巧みに表現されています。筆で描かれた顔や脚の躍動感も見事です。かっこよさと生命感が伝わってくる作品で、漢字の形を生かした工夫に作者の創造力が感じられます。

「歌」 歌よ、届け！



福井県 福井県立高志中学校2年

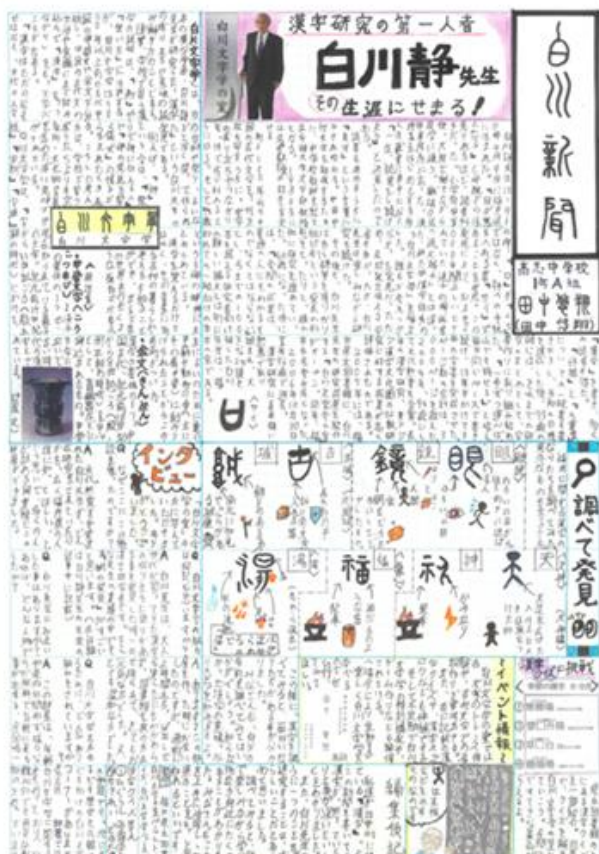
鈴木 望友さん

■講 評(大野氏)

「歌が好き」という思いが作品全体にあふれ、古代文字に現代的感性を取り合わせた表現が新鮮です。“可”を音符に見立てたアイデアが光り、“欠”では気持ちよく歌う少女の姿をマンガ風イラストで表現するなど、視覚的にも楽しい作品です。

「白川文字新聞」

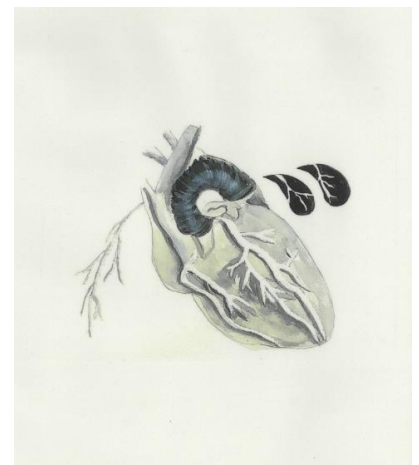
福井県 福井県立高志中学校1年 田中 悠翔さん



■講 評(岩佐氏)

白川静博士や白川文字学について多角的に調べたことを、工夫された構成でまとめています。手書きで書かれた作品は、昭和の壁新聞のような温もりと白川静博士というふるさとの偉人への敬意が感じられる秀逸な作品です。

「心」 は一と



福井県 福井市藤島中学校1年

西井 みこさん

■講 評(岩佐氏)

あえて色を付けずに灰色で描かれたリアルな心臓が、“心”の本質に迫るような深みを感じさせます。筆のタッチも繊細で、細部までよく描かれており、他の作品とは一線を画す個性的な作品です。リアリズムの中に作者の真剣な思いが伝わってきます。

白川静漢字教育賞【第12回】



自由部門

「神山の四季」

福井県 越前市神山小学校5年
元気いっぱい神山っ子さん



■講評（岩佐氏）

ふるさと学習と漢字教育を融合させ、白川文字学を通して身近な自然を見つめ直し、里山の魅力を生き生きと表現した作品です。山の形の模造紙に山の四季を描き、元気な子どもたちが楽しみながら学んだ様子が伝わってきます。

■講評 一漢字川柳部門一（岩佐氏）

漢字川柳部門は、漢字の成り立ちに関するオリジナル川柳作品ということで、まずは漢字の成り立ちを調べ、そこから想像をふくらませて創作した川柳を応募する部門です。48点の応募がありました。漢字の成り立ちから想像した風景を五・七・五のリズムに乗せてわかりやすく表現し、漢字の成り立ちを知るおもしろさが伝わる作品が多くありました。

■講評 一漢字作文部門一（大野氏）

漢字作文部門は、漢字にちなんだ400字までの自由作文を応募する部門です。216点の応募がありました。普段になげなく使っている漢字一文字に興味を持ち、調べたことについて自身の体験を踏まえて書き、作者の素直な驚きや感動が伝わる作文が多くありました。独自の見方・考え方を取り入れた魅力的な作品も見られました。

■講評 一自由部門一（大野氏）

自由部門は、白川静博士や漢字をテーマに、自由な発想で創作した作品を、考えたことや工夫した点などの解説を添えて応募する部門です。1,039点の応募がありました。国語科での書作品や美術科での文字デザイン作品が多く寄せられ、個人で取り組んだ創意工夫に富む作品も多くありました。今年度は県外からの応募が増加し、自由な発想で漢字の作品を創作する取組が普及していくことをうれしく思います。発想の豊かさや表現の多様性に驚かされるものも多く、見ごたえのある作品ばかりでした。



学校賞 ※小・中学生の部

福井県 越前市服間小学校
福井県 大野市上庄小学校
茨城県 茨城県立鉾田第一高等学校附属中学校
福井県 福井市清水中学校

福井県では、本県出身の白川静博士の功績にちなみ、特色ある漢字教育を実践している方や、漢字文化の普及や生涯学習の推進に貢献している方、ならびに漢字に親しむ小・中学生を全国から公募、表彰する「白川静漢字教育賞」を実施しており、今年度、第12回を迎えることができました。今回は13都道府県から1,393点のご応募をいただきました。令和7年10月、福井県庁にて選考委員会を実施し、受賞作品を選考いたしました。

【選考委員】（敬称略）

棚橋 尚子（奈良教育大学教育学部名誉教授）
加藤 徹（明治大学法学部教授）
後藤 文男（立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所上席研究員）
伊与登志雄（福井新聞社参与・特別編集委員）
津崎 史（白川静博士長女）
藤丸 伸和（福井県教育委員会教育長）
<小・中学生の部のみ>
大野喜美恵（福井県中学校教育研究会国語部会長）
岩佐 直美（福井県小学校教育研究会国語部会長）

白川文字学ホームページ



福井県教育庁生涯学習・文化財課
TEL：0776-20-0559
Mail：syoubun@pref.fukui.lg.jp